

安藤昌益

2015 年本試

問 6 次のア～ウは、理想的な人倫や、それを実現するための実践をめぐる様々な考え方を示した、江戸時代の思想家についての説明であるが、それぞれ誰のことか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

25

ア 近世の封建的身分秩序のなかで、善を実現するには、居敬窮理の工夫が必要であると説いた。居敬窮理とは、欲望を抑えて心身をつつしみ、天地や人倫の秩序を根拠づける上下定分の理を、明らかにすることである。

イ 農民に寄生する武士が支配者として上に立つ当時の社会を批判し、理想社会としての自然世へ復帰すべきであると説いた。自然世とは、すべての人々が平等に田畑を耕し、衣食住を自給する社会のことである。

ウ 農業とは天道と人道があいまって成立する営みである、との考えに基づき、勤労や儉約といったあるべき生活態度を説いた。天道とは自然の営みのこと、人道とは、そこから人間が恵みを得ようとする作為のことである。

- | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|
| ① | ア | 藤原惺窩 | イ | 安藤昌益 | ウ | 石田梅岩 |
| ② | ア | 藤原惺窩 | イ | 安藤昌益 | ウ | 二宮尊徳 |
| ③ | ア | 藤原惺窩 | イ | 貝原益軒 | ウ | 石田梅岩 |
| ④ | ア | 藤原惺窩 | イ | 貝原益軒 | ウ | 二宮尊徳 |
| ⑤ | ア | 林羅山 | イ | 安藤昌益 | ウ | 石田梅岩 |
| ⑥ | ア | 林羅山 | イ | 安藤昌益 | ウ | 二宮尊徳 |
| ⑦ | ア | 林羅山 | イ | 貝原益軒 | ウ | 石田梅岩 |
| ⑧ | ア | 林羅山 | イ | 貝原益軒 | ウ | 二宮尊徳 |

| 問題番号 | 設問 | 解答番号 | 正解 | 配点 |
|------|----|------|----|----|
| 第3問 | 問6 | 25 | ⑥ | 3 |

2011 年本試

問 5 善行の社会的な側面をも重視する近世の思想家もいた。次のア～エはそれらの思想家の説明であるが、それぞれ誰だれのことか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 18

ア 古代中国の聖人が制作した儀礼・音楽・刑罰・政治などの制度こそが、天下を安んずるための「道」であるとし、心の修養を求めることよりも、具体的な「道」を学び実践することによる効果の方が重要であると説いた。

イ すべての人々が田畑を耕して衣食住を自給する平等社会を、理想的な「自然世」と呼んだ。そして、みずから耕さずに農民に寄生している武士などが存在する当時の差別社会を「法世」と呼び、「自然世」への復帰を説いた。

ウ 名を求め、恥を知るといふ心のあり方を重んじる中世的な気風の武士道を批判し、儒学に基づく武士道としての「士道」を説いた。そして、武士は道徳的な指導者となって人倫の道を天下に実現すべきであると主張した。

エ アヘン戦争で清がイギリスに敗北したことに衝撃を受け、西洋諸国に対抗するためには科学技術の移入が必要であると考えた。そして、「東洋道徳」とともに「西洋芸術」をも詳しく学ぶべきであると主張した。

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|---|-------|
| ① | ア | 荻生徂徠 | イ | 安藤昌益 | ウ | 山鹿素行 | エ | 佐久間象山 |
| ② | ア | 安藤昌益 | イ | 山鹿素行 | ウ | 荻生徂徠 | エ | 高野長英 |
| ③ | ア | 山鹿素行 | イ | 安藤昌益 | ウ | 荻生徂徠 | エ | 佐久間象山 |
| ④ | ア | 山鹿素行 | イ | 荻生徂徠 | ウ | 安藤昌益 | エ | 吉田松陰 |
| ⑤ | ア | 荻生徂徠 | イ | 山鹿素行 | ウ | 安藤昌益 | エ | 高野長英 |
| ⑥ | ア | 安藤昌益 | イ | 荻生徂徠 | ウ | 山鹿素行 | エ | 吉田松陰 |

| 問題番号 | 設問 | 解答番号 | 正解 | 配点 |
|-------|-----|------|----|----|
| 第 3 問 | 問 5 | 18 | ① | 3 |

2008 年追試

問 1 文章中の 13 に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。 13

安藤昌益は、万人が土を耕して生活する平等社会を理想とし、13への復帰を主張した。

- ① 小国寡民 ② 自然世
③ 知足安分 ④ 古 道

| 問題番号 | 設問 | 解答番号 | 正解 | 配点 |
|-------|-----|------|----|----|
| 第 3 問 | 問 1 | 13 | ② | 2 |

2002 年追試

問 2 近世の安藤昌益の平等観の記述として最も適当なものを，次の①～⑤のうちから一つ選べ。 21

- ① 宇宙の根源に「孝」をすえるとともに，天を父とし地を母とした「天地の子」であるかぎり「われも人も人間の形あるほどのものは皆兄弟」だと説いた。
- ② 無神論・無靈魂論を標榜^{ひょうぼう}する自由なる精神をもって，「自由平等これ大義」と述べ，それに反する帝国主義や専制主義を批判した。
- ③ 主客未分の「純粹経験」の立場から，すべての人間には，個として自己を真に実現しうる可能性がある^{と主張した}。
- ④ 人間に対する天地の平等なあり方をふまえ，すべての人が「直耕」する「自然世」の立場から，人為的な「法世」に内在する差別的人間観を批判した。
- ⑤ 人間の^{ないおう}内奥には，他人のうかがい知れない「内部生命」があり，社会的な平等は，その個を抛りどころとして成り立つと説いた。

| 問題番号 | 設問 | 解答番号 | 正解 | 配点 |
|-------|-----|------|----|----|
| 第 3 問 | 問 2 | 21 | ④ | 3 |

2001 年本試

問 2 環境問題に関連して、次のア～エの記述が当てはまる人物の組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 32

ア 工場廃液による汚染のために公害病に冒された人々を取材し、被害者に強い共感を示して公害問題の実態に迫った。

イ 生態学的な視点から、神社合祀令による神社の統廃合によって鎮守の森が破壊されることに反対した。

ウ 消費を中心とする社会を批判し、農民の立場に立って自然と協調しながら生きる世の中の確立を説いた。

エ 地元の鉱山の鉱毒によって農民が被害を受けている現実直面して、鉱山の操業停止を求める運動を起こした。

- ① ア 田中正造 イ 南方熊楠 ウ 安藤昌益 エ 石牟礼道子
② ア 南方熊楠 イ 安藤昌益 ウ 石牟礼道子 エ 田中正造
③ ア 安藤昌益 イ 石牟礼道子 ウ 田中正造 エ 南方熊楠
④ ア 石牟礼道子 イ 南方熊楠 ウ 安藤昌益 エ 田中正造
⑤ ア 田中正造 イ 石牟礼道子 ウ 南方熊楠 エ 安藤昌益
⑥ ア 石牟礼道子 イ 田中正造 ウ 安藤昌益 エ 南方熊楠

| 問題番号 | 設問 | 解答番号 | 正解 | 配点 |
|-------|-----|------|----|----|
| 第 4 問 | 問 2 | 32 | ④ | 2 |